



地域支援センター「みみらんど・郡山」

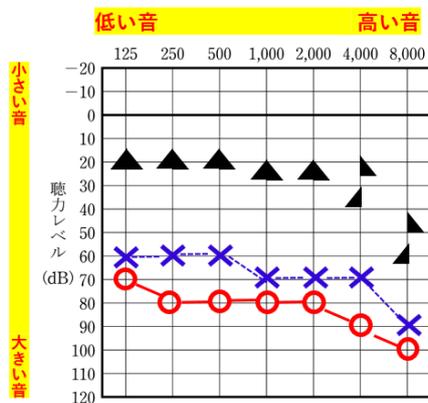
令和元年度・第3回きこえとことばの基本研修会

テーマ「聴力検査の結果の見方と活用について」

8月22日(木)、第3回きこえとことばの基本研修会が行われました。本校の自立活動支援センター石垣太郎教諭を講師に、「オーディオグラムの説明」や「聴力検査の方法」、「検査結果から考える児童生徒への支援」など、体験を交えながら研修が行われました。



オーディオグラムの見方



右耳裸耳 (補聴器無し)
→○ (実線で結ぶ)
左耳裸耳 (補聴器無し)
→× (点線で結ぶ)

補聴器を付けた聴力は、
右→▲ 左→▼
補聴器装用時の聴力は、
線で結びません。

【注意すること】

- ※オーディオグラムの聴力はきこえ始めの数値であり、内容を理解できる音の大きさではない!
- ※スピーチバナナ内に入っていない聴力がある。きこえにくい音は、努力できこえるものではない。

聴力検査の活用

～日本語の獲得を目指して、手立てや配慮を考える!～

- ★話し声の大きさについては、**聴力+20デシベル**の大きさの声を子どもに届ける。
(距離が離れれば音の大きさは減衰することや騒音を考慮する。)
- ★きこえにくい音声情報を届ける手立てを考える。
(文字や指文字等の視覚情報の提示、文脈からの読み取りなど、子どもが理解できる情報の伝え方)
- ★発言をするときは一人ずつ話すなど、授業や活動でのルールづくりをする。

感想

○オーディオグラムを見てもよく分からず活用できませんでした。具体的に説明をしていただき理解することができました。あくまでも数値上のものであるけれど、子どもとかかわる上でとても参考になり、手立てを講じる大切な情報であると感じました。

○検査結果の見方、特にスピーチバナナの内容が参考になりました。これからのかかわりの中に活かしていきたいと思います。